

# 辺野古新基地建設事業・公有水面埋立変更に係る

## 県知事の不承認についての声明

辺野古土砂搬出反対全国連絡協議会

マヨネーズ並みと言われる軟弱地盤の存在が明らかになったことに伴い沖縄防衛局から提出されていた辺野古新基地建設の公有水面埋立変更申請について、本日、玉城デニー知事は不承認とする決定を下した。

私たち、土砂搬出候補地の市民及び団体のネットワークである辺野古埋立土砂搬出反対全国連絡協議会は、昨秋沖縄県が審査にあたり実施したパブリックコメントでも、申請書が生物多様性の重要性を無視していること、外来生物の侵入による沖縄島固有の生態系破壊を食い止める対策が示されていないこと、地盤改良工事のための大量の海砂採取・調達に沖縄島周辺の海域や響灘の生態系破壊につながることを理由に、不承認とするよう求めてきた。今回の知事の決定を歓迎したい。

不承認の理由をみると、上記の論点について直接言及はされていないが、環境保全上や災害防止上の十分な対策がされていないことなどとされている。決して辺野古新基地建設に反対するための政治的な思惑からなされたものではなく、軟弱地盤に関する必要な地盤調査すら行わなかったことが理由である。無理筋の変更内容から申請の不承認は必然であったのだ。

沖縄防衛局は、不承認決定を受けて直ちに進行中の工事を中止すべきである。

私たち土砂全協の地元から土砂を運び出すなという追及によって、変更申請では戦争で多くの死者が出た沖縄本島南部地区から全体の7割を採取することが目論まれていた。遺骨混じりの土砂で基地を作るという非人道的な計画に辺野古新基地への賛否を越えて批判が集まっていたが、不承認によっていったん白紙に戻ることになる。基地建設のための埋立に沖縄県内外の全ての候補地で一粒の土砂も採取させない取組みを私たちは継続していく。

これまで国は私人に成りすまして不服審査請求を行い、大臣が処分を取り消すなどの不当な地方自治介入を行ってきた。今回も提訴など決定を覆そうとする行為を厳に慎むべきである。

2021年11月25日